

◆**タイトル:** 僕が吉田寮の『長老』になった理由

◆**サブタイトル:** 築 100 年！家賃 400 円！日本最古の学生寮・京都大学吉田寮

◆**企画者名:** 椎名 健人

◆**企画者プロフィール:**

2009 年 4 月の京都大学教育学部入学直後に吉田寮に入寮し、現在に至るまで 6 年間以上吉田寮に住み続けている「長老」。長い寮生活を通して寮内の様々な出来事や事件を経験しており、吉田寮やそこに暮らす人々に関して、外部の人間にはわからない様々な特徴や秘密を多数知っている。また、自身が入寮するより前の吉田寮における逸話や、吉田寮の先人たちが遺した個性的なエピソードも多数コレクションしており、吉田寮の過去の話にも精通している。

1 回生時より、学内の新聞サークルである京都大学新聞社に所属し、2015 年現在に至るまで 6 年以上、学生記者としての活動を続けている。例年 5 月に行われる「吉田寮祭」に関しては、2011 年以降、4 年連続で特集記事を担当。2009 年以降の 6 年間で、吉田寮について伝えるための文章を一番多く書き、発表してきた。

◆**企画概要:**

京都大学の吉田南キャンパス内に現存する築 100 年超の木造学生寮、「吉田寮」の魅力や、そこで暮らす現在及び過去の寮生たちが遺した伝説・逸話などを、現役吉田寮生である筆者が自身の驚くべき体験を元に紹介する。

◆**見本原稿:**

(第 3 章 「大変です。これから赤田が死にます」より)

●**「大変です。これから赤田が死にます」**

寮内の至るところに設置されたスピーカーを通して様々な「お知らせ」を伝えてくれる全寮放送。寮内会議や荷物の受け取り、鍋パーティの告知など、放送内容はほとんどの場合、当たり障りのない告知の類である。しかし、ごく希にとんでもないニュースが飛び込んでくることもある。

僕が見聞きした限りでこれまで最も衝撃的な全寮放送は、何年か前の昼下がりに突然流された「大変です。これから赤田が死にます」という「お知らせ」だった。

なぜ、このような悲しいニュースが放送されてしまったのか。僕はその時、たまたま外出していたから詳しい話は伝聞に頼る他ないが、大まかな経緯としては以下の通りである。

日頃からやや感情の起伏が激しめの寮生、赤田君は、最近イマイチ上手くいっていない対彼女関係のことで、その日もイラついていた。ルームシェアの経験者には分かって頂けると思うが、相部屋相手の機嫌が悪いことほど面倒くさいことも他にない。赤田のイライラは程なく相部屋の西くんにも伝染し、ついに二人は口喧嘩になってしまった。西が何と言って赤田を罵倒したのかは知らないが、とにかく口喧嘩中に発せられた何らかの言葉が引き金になり、とうとう赤田は「もういい。俺はこれから吉田山で首吊って死ぬ」と自殺予告をしてそのまま寮を出奔してしまった。

喧嘩相手をその場で気遣える人は少ない。出ていく赤田を止めることもせず、「好きにしろ」と放置した西だったが、時間が経つてくるとにわかになんか心配になってきた。

「赤田が本当に死んだらどうしよう」、「赤田が死んだら俺のせいだ」……パニックになった西は事務室に駆け込み、放送用マイクを手にとると「大変です。これから赤田が死にます」と絶叫したのである。

隣人愛に満ちあふれた寮生たちは、この面白そうな放送を聞くとすぐさま受付に集結。赤田が吉田山に向かったと聞くと、彼らは即座に元気よく寮を出発し、赤田を探し出すための山狩りを開始した。いつもは部屋でダラダラ昼寝してばかりの寮生だが、こういう時には異常なまでの機敏さを見せる。

さて、寮生十数名体制による山狩りが一時間ほど続いた結果、赤田は吉田山の山頂で呆然と立ち尽くしているところを発見され、あえなく山から引きずり降ろされた。発見時、赤田は特に自殺の用意などをしていただけでもなかったそうだから、結局は誰かに迎えにきて欲しかっただけなのかもしれない。

しかして赤田自殺騒動は一応の落ち着を見たが、無償で山狩りを行うことになった寮生たちがタダ働きの見返りを求めないわけがない。彼らはその晩、赤田に金を全額出させて「赤田復活祭」と称した酒宴を催し、昼に行った捜索活動の元を取ることに成功した。

夕方に寮に帰ってきた僕は「赤田復活祭」開催直前の光景を目撃したのだが、この時の寮生たちの態度は「さすが」だと言わざるをえなかった。「『赤田復活祭』は赤田の復活を祝う祭り。だから赤田が金を全額出すのは当然」という謎の理論で赤田に詰め寄る寮生たち。彼らに「いいよな？いいよな？」と迫られた赤田には、もはや「うん」とうなずくしか選択肢は残されておらず、かくいう僕もちゃっかりと「赤田復活祭」の末席に座り、赤田の金で思う存分タダ酒を楽しんだのだ。